

下野市立南河内中学校

1 学校課題

主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成
～伝える力を高める実践的、対話的な活動を目指して～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校では、2022年度の義務教育学校設立に向け、中学校区の小学校と一緒にコミュニケーション力の育成に向けての推進研究を行い、昨年度から4校共通で「主体的に表現し、伝え合う生徒の育成」を学校課題に設定して取り組んできた。本校の学校経営方針にもある、他と「つながる」ために、コミュニケーション力は不可欠であり、言葉の力は思考力や感受性を支え、全ての教育活動の基盤となるものであると考え、授業や行事などの様々な場面で取り組んできた。

一方、本校の生徒には、気の合う限られた集団の中でのみコミュニケーションをとる傾向があることや、相手に上手く伝えられずに、自分の思いや考えを一方向的に伝えるのみに終わってしまう場合があるなど、様々な課題がある。また、授業や行事などの場面で、情報の伝達や共有するという指導が不十分であったとの反省もあった。

このことから、本年度は学校課題に「伝える力を高める実践的、対話的な活動を目指して」という副題を加え、自分の考えや思いを適切に表現し、様々な場面や集団の中で人間関係やチームワークを形成し相手の反応や気持ちを受け止めながら、合意形成・課題解決する生徒の育成に取り組んできた。

3 研究内容

(1) 主な研究

①全体での研修

- ・学校課題の共通理解、研修の反省と評価、次年度への課題の設定
- ・研究授業・提案授業を通しての研修
- ・S&Uコラボ事業による宇都宮大学准教授の指導による研修（授業研究のあり方）

②各研究ブロックの研究

- ・教科ブロックでは、教科指導や授業で「コミュニケーション力の育成」を目指す研究を行う。
- ・特別活動ブロックでは、生徒会、専門委員会、学校行事等で「伝える力を高める実践的、対話的な活動」を目指す研究を行う。

③アンケートによる実態調査

【研究の経過】

月	研修会	研修内容
4月	職員研修	・学校課題のとらえ方と研究の方法・進め方の確認・共通理解 ・「主体的・対話的で深い学び」に関する研修
6月	職員研修 実態の把握	・各研究ブロックごとの研究計画の話し合い ・第1回コミュニケーションアンケート
7月	生徒による授業評価 職員研修	・生徒アンケートによる授業評価 ・「授業力UP・マイスター・プロジェクト」教材による研修会
8月	職員研修	・県教育委員会「学力調査結果活用研修会に係る研修動画」による研修会
9月	職員研修 小中連携研修(学区) 個人研究	・全国学力学習状況調査結果の分析 ・各教科の課題と対策の確認 ・「コミュニケーション力育成」についての情報交換 ・小中連携の理解と推進 ・生徒による授業評価の集計結果の考察

10月	職員研修	・とちぎっ子学力学習状況調査結果の分析
11月	職員研修	【校内授業研究会】 ・2年道徳科 C－(11) 公正、公平、社会正義「ヨシト」 研究授業・授業研究会
12月	職員研修 ----- 生徒による授業評価	【S & U コラボ事業】 ・学校課題に関する講話「コミュニケーション力の育成」 ----- ・生徒アンケートによる授業評価
1月	実態の把握 ----- 個人研修	・第2回コミュニケーションアンケート ・結果を第1回と比較し、変容を確認する。 ----- 【提案授業】 ・全教員による「コミュニケーション力」を高めるための工夫をした提案授業を行う。
3月	校務分掌会議 教科部会 全体研修会	・成果と課題の確認と次年度の計画立案に向けた話し合い ・生徒の変容の確認（実態調査の実施） ・研究課題のまとめと反省の検討 ・研究のまとめと次年度への課題

(2) 研究の実際

① 11月 4日（水）校内授業研究会

授業研究会 2年道徳科 C－(11) 公正、公平、社会正義「ヨシト」

日常にある同調圧力に屈せず公正・公平な行動を取り、よりよい社会を実現しようとする態度を育てる授業である。導入時に教師と生徒のロールプレイを取り入れ、同調圧力についての認識を図り、望ましいコミュニケーションを阻む問題として考えさせる手立てがあった。また、それぞれの本音を安心して語り合えるコミュニケーション活動の大切さに気付かせる、本研究の目標に迫る内容であった。研究協議では、話し合いの形態や生徒の意見を取り上げて広げる手法についての様々な意見が出された。また、道徳の評価に関する研修も行い、実践的で教師力の向上につながる研修会となった。



② 12月 9日（水）S&Uコラボ事業

講話 学校課題に関する講話「コミュニケーション力の育成」

学校課題に関する講話をいただいた。コミュニケーションは、意味の伝達であり、受け手が解釈すると成立するものであるということなど、コミュニケーションの概念が広がる話であった。相手を意識したコミュニケーションや、受け止める側の指導の重要性を改めて感じることができた。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

① 6月と1月に実施した生徒を対象としたコミュニケーションアンケートでは、3学年の回答において肯定的な割合が増えた。これは、本研究により、人の気持ちをくみ取りながら意思の疎通ができる「人間関係力」の向上が高学年に顕著に表れ、コミュニケーションの向上につながったと見られる。

(2) 研究の課題

- ① 本年度は、感染症への対策として生徒同士の話し合い活動に制限があった。今後は、感染症対策をしながらコミュニケーション活動を充実させるような研究をすすめていきたい。
- ② 1・2学年では、特に変化は見られず、学年による効果の度合いにはばらつきが見られる。

